

特別講演概要

演 題 「これからの日本を支える技術と制度」

講 師 YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所長

TRON プロジェクト リーダー

東京大学大学院 情報学環 教授

坂村 健 先生

□ 講師経歴

1951年東京生まれ。東京大学大学院情報学環教授。工学博士。専攻はコンピュータ・アーキテクチャー(電脳建築学)。1984年からTRONプロジェクトのリーダーとして、オープンなコンピュータ体系を構築して世界の注目を集める。現在、TRONは携帯電話をはじめとしてデジタルカメラ、FAX、車のエンジン制御と世界中で非常に多く使われており、ユビキタス(どこでも)コンピューティング環境を実現する重要な組込OSとなっている。さらに、コンピュータを使った電気製品、家具、住宅、ビル、都市、ミュージアムなど広範なデザイン展開を行っている。

2002年1月よりYRPユビキタス・ネットワーキング研究所長を兼任。

IEEE(米国電気電子学会)フェロー。第33回市村学術賞特別賞受賞。2001年武田賞受賞。2003年紫綬褒章受章。2004年大川賞受賞。2006年日本学士院賞受賞。

主な編著書には、

『毛沢東の赤ワイン - 電脳建築家、世界を食べる』(角川書店)、『不完全な時代 - 科学と感情の間で』(角川書店)

『ユビキタスとは何か』(岩波書店)、『変わる国・日本へ』(アスキー新書)、『ユビキタスでつくる情報社会基盤』(東京大学出版会)、『グローバルスタンダードと国家戦略』(NTT出版)、『ユビキタス、TRONに会う』(NTT出版)、『21世紀日本の情報戦略』(岩波書店)、『ユビキタスコンピュータ革命』(角川書店)、『情報文明の日本モデル』(PHP研究所)、『痛快! コンピュータ学』(集英社)、『TRON DESIGN』(パーソナルメディア) など多数ある。

□ 講演内容

現在の情報通信技術の可能性と、その技術によるさまざまな応用について解説する。また情報通信技術を含む、科学技術面でのイノベーションの成果を、実際に社会に出して広く利用されるようするために必要な、技術・制度両面からのインフラ整備について、事例を上げながら述べる。イノベーションに関して世界の他の国の取っている方策との比較を行うとともに、イノベーションに社会への出口を与えるに於いての日本の抱える課題を、政府の構造、社会の意識、セキュリティといった面からあげ、その面においてこれからの情報通信技術がどのように関与できるかについて、その将来像を語る。さらに、最新の実例としてユビキタス・コンピューティング、IoT(Internet of Things)といった、最新のコンピュータ・ネットワーク応用モデルを取り上げ、その分野での我々の成果であるuID アーキテクチャについて解説する。